

【豪雨災害リスク低減に向けた気象データ活用実証】

テーマ概要

令和8年8月の千葉豪雨をはじめ、近年は気候変動の影響により局地的な豪雨が頻発しており、豪雨災害リスクへの対応が重要な課題となっています。

豪雨災害リスクの低減に向けて、気象情報の収集・分析の高度化や、防災情報提供・避難判断支援への将来的な活用に資する技術・サービスのアイデアを募集します。

千葉市の課題

- 短時間強雨や線状降水帯による浸水被害リスクが増大している。
- 局地的豪雨は予測が難しく、警戒レベルが短時間で駆け上がることがあり、判断や準備のリードタイムが確保できない。
- 防災対応の強化に向け、気象データの活用や分析手法の高度化が求められている。

想定する解決策

- 新たな気象観測データの取得に関する実証
- 気象データの解析や利活用に関する技術実証
- 豪雨発生時の状況把握や浸水リスク予測の高度化に資する実証
- 防災情報提供や避難判断支援への活用に資する実証
- 将来的な防災・減災への活用を見据えた気象データ活用の検証

今後の展開予想

技術の導入・活用検討

- 実証で有効性を確認
- 防災情報の収集・分析業務への活用検討

防災業務の高度化

- 豪雨発生時の状況把握や気象・浸水リスク予測の高度化

将来的に 市民サービスへ展開

- 将来的に市民への防災情報提供や避難判断支援への活用を検討

募集概要

担当部署	千葉市総合政策局危機管理部危機管理課
提案の提出期限・ 想定する事業実施時期	提案提出期限:令和8年10月2日 事業実施時期:令和8年度 10月～3月
抱える問題点や課題	● 近年、局地的豪雨や線状降水帯による浸水被害リスクが高まっている。 ● 局地的な豪雨は予測が難しく、状況把握や初動対応に必要な情報が十分ではない。 ● より効果的な防災対応のため、気象データの収集・分析手法の高度化が求められている。 ● 市民への防災情報提供や避難判断支援に活用できる新たな技術・サービスの検証が必要である。
想定する解決策	● 新たな気象観測データの取得に関する実証 ● 気象データの解析や利活用に関する技術実証 ● 豪雨発生時の状況把握や浸水リスク予測の高度化に資する実証 ● 防災情報提供や避難判断支援への活用に資する実証 ● 将来的な防災・減災への活用を見据えた気象データ活用の検証

提案側の想定メリット (定量的な提供)	● 気象データ活用技術の有効性検証 ● 自治体との連携実績の創出 ● 防災分野における社会実装の可能性検証
検討経緯・これまでに実施したことがある施策等	● SNS投稿から災害情報を抽出するシステム『Spectee Pro』の導入
提案企業に求める専門性	● 気象データ解析、AI・機械学習等を活用した予測技術 ● 取得データの可視化や情報提供システム構築に関する技術
各部署が提供できるリソース等	● 実証フィールドの提供 関係部署との調整・連携支援 ● 防災関連データや公開データに関する情報提供 ● 実証結果の庁内共有および社会実装に向けた検討支援
事業実施にあたっての留意点、制約等	● 補助金を活用した提案を行う場合は、対象となる補助金を『スマートシティ実証事業補助金』に限る。 ● 機微情報を取り扱う場合は関係法令を遵守すること。 ● 実証内容によっては関係機関との調整が必要となる。
市の財政負担・今後の展開想定	今年度予算あり・予算要望検討・補助金活用検討
参考情報・備考	